

4 月 15 日（日）に行われた新試験制度 7 回目の実施となる平成 24 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データをもとに、合格発表コメントをお知らせします。

■プロジェクトマネージャ試験（PM）

[平成 24 年春期のプロジェクトマネージャ試験 統計情報]

| | |
|-----|----------|
| 応募者 | 19,680 人 |
| 受験者 | 12,458 人 |
| 合格者 | 1,628 人 |
| 合格率 | 13.1% |

プロジェクトマネージャ試験は、従来実施されてきたプロジェクトマネージャ試験と同等のレベル・内容の試験ですが、従来、取り上げられてこなかった組込みシステムの事例も午後試験に含めることになりました。

今回のプロジェクトマネージャ試験では、昨年の平成 23 年春期のプロジェクトマネージャ試験に比べ応募者が 800 人ほど減りました。合格率は前回の 13.3% とほぼ同じ 13.1% で、合格者数もほとんど変わりませんでした。

（午前Ⅰ試験（高度試験の共通知識問題））

- ・高度試験に共通して出される問題 30 問は、前回の試験と同様にすべて応用情報技術者試験（AP）から選ばれていますが、AP の問題の中でも比較的素直で常識的な問題が選ばれています。
- ・過去問題の比率は 6 割弱で、従来どおりの比率といえます。
- ・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されていますが、特定の中分類からは複数出題されています。毎回この分野は少しずつ変わりますが、従来の傾向からは次の分野がやや重視されていることが分かります。

（やや重視される中分類）

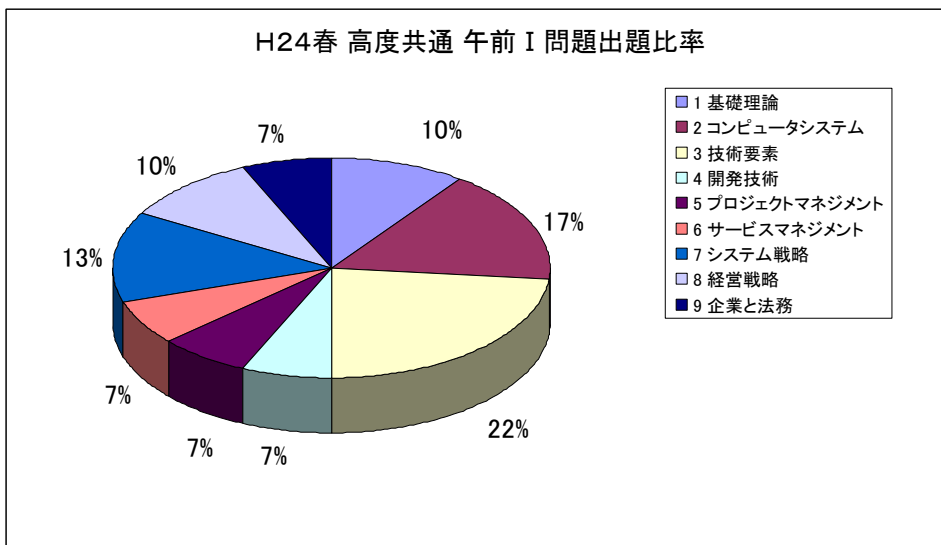
基礎理論，システム構成要素，データベース，ネットワーク，セキュリティ，プロジェクトマネジメント，システム戦略，経営戦略

- ・新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。

（新傾向問題）

- 問 4 コヒーレンシの対策が必要な書込み方式（＝応用情報 問 13）
- 問 15 メール送信で機密性を確保できる仕組み（＝応用情報 問 41）
- 問 18 EVM を活用したパフォーマンス管理（＝応用情報 問 52）
- 問 22 災害や事故の発生後の対応（＝応用情報 問 61）

平成 24 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



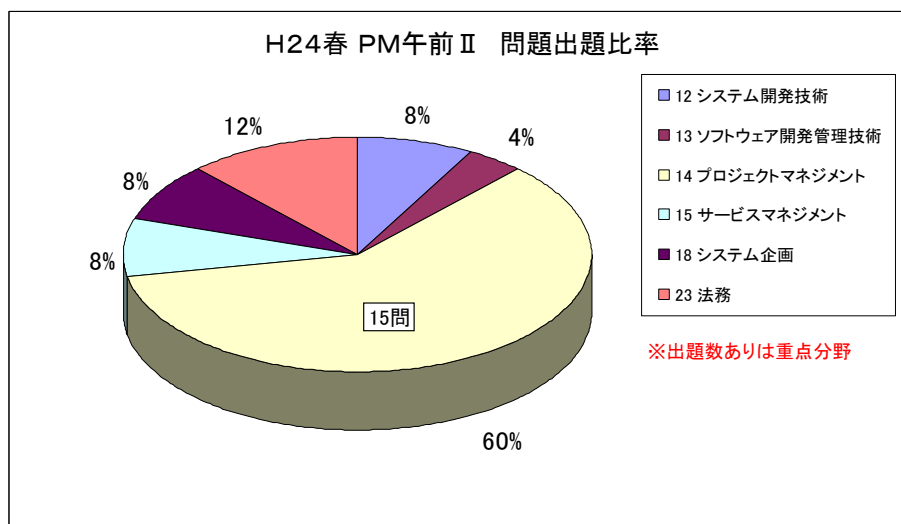
(午前 II の専門知識問題)

午前 II 試験では、専門分野のプロジェクトマネジメント (PM) とサービスマネジメントで半分以上の出題数になっています。今回は PM 分野で 15 問出題されており、そのうちの 9 問が過去問題だったので、解きやすかったと思われます。PMBOK と明記した問題は前回 3 問ありましたが、今回は 2 問でした。

新傾向問題としては、次の問題が挙げられます。

- 問 5 ファストトラッキング技法を適用した工期短縮
- 問 8 “7 の法則” で原因を調べるべき X-R 管理図
- 問 10 コンフリクトマネジメントを行う際の指針
- 問 15 受注者が所定の利益を受け取る外部調達契約の形態
- 問 19 組織構成員の責任に関するサービスオーナーの説明
- 問 22 要求分析でのデータとプロセスの対応関係
- 問 23 グリーン購入法における“環境物品等”の規定
- 問 24 日本におけるビジネス方法の特許

平成 24 年春期のプロジェクトマネージャ試験 午前 II 問題出題比率



(午後問題)

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。新試験では解答数が3問から2問に減りましたが、他の試験と同様に、1問あたりの解答量が多くなってきており、解答時間の余裕はあまりないと思われます。

・問4はスマートフォンをテーマとした組込みシステムの出題ですが、専門知識が必要な内容ではありません。

問1 外部設計の状況確認 (金融機関の営業情報システム) 普通

設計の進め方・内容、品質確保、要件定義、作業順序・体制の調整、スコープの変動、要望と調整

問2 プロジェクトの立て直し (製造業の経営管理システム) 普通

目標の内容と作業・改善内容、要件の収束、プロジェクト運営方針、要求の効果と優先順位、体制提案

問3 EVMによるプロジェクト管理 (製造業の販売管理システムの再構築) やや難

EVM採用理由、要件定義の利用部門早期参加、WBSの策定、EVMの導入、タスク完了の第三者確認、時間管理の仕組み修正、SPIとCPI悪化の原因、チーム運営の指示

問4 組込みシステム開発の結合テスト (スマートフォン開発) やや易

応援メンバの受入れ、生産性の変化、改修順序の計画、プロジェクト全体への影響と最優先事項、テスト進捗の管理と指標

・午後Ⅱの論文問題の出題分野とテーマは次のとおりです。前回同様、どの問題も一般的な記述し易いテーマでした。

新試験では各設問に字数制限が付き、設問ア：800字以内、設問イ：800字～1,600字：設問ウ：600字～1,200字となっています。

問1 システム開発プロジェクトにおける要件定義のマネジメントについて

特徴、システム化の要求、要件膨張の防止策、実施状況と評価、要件定義漏れ・誤りの防止策・評価

問2 システム開発プロジェクトにおけるスコープのマネジメントについて

特徴、スコープ変更の原因、目標への影響、関係者との協議、成果物と作業の再定義

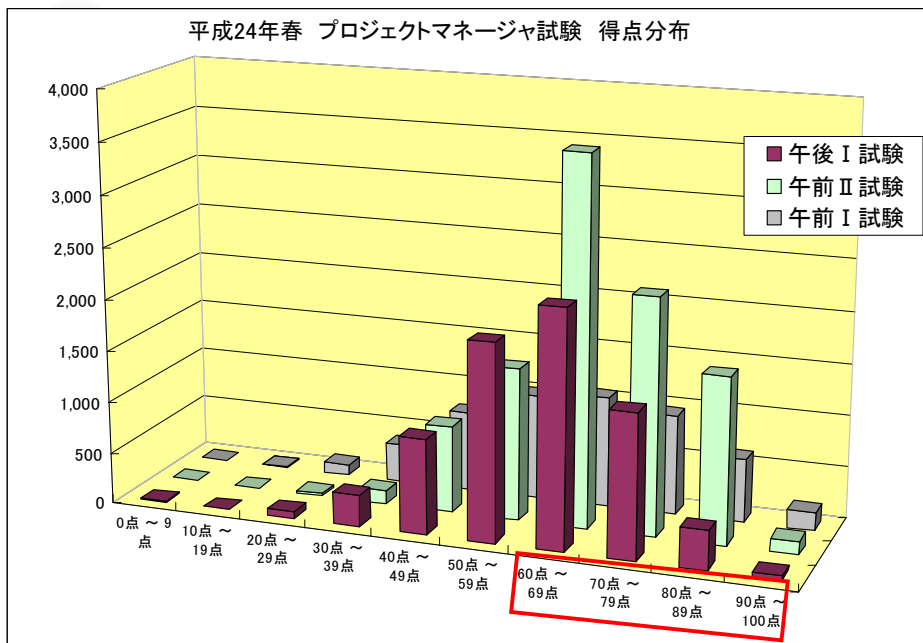
問3 システム開発プロジェクトにおける利害の調整について

特徴、利害調整が必要な問題と関係者、利害の内容、解決した内容と工夫点、評価と課題

(平成 24 年春 (特別) プロジェクトマネージャ試験 スコア分布)

| 得点 | 午前 I 試験 | 午前 II 試験 | 午後 I 試験 | 午後 II 試験 | 合格者 |
|--------------|---------|----------|---------|----------|-------|
| 0 点 ~ 9 点 | 0 | 4 | 8 | D | 627 |
| 10 点 ~ 19 点 | 5 | 2 | 6 | | |
| 20 点 ~ 29 点 | 103 | 26 | 64 | C | 325 |
| 30 点 ~ 39 点 | 376 | 130 | 303 | | |
| 40 点 ~ 49 点 | 776 | 841 | 922 | B | 1,510 |
| 50 点 ~ 59 点 | 1,021 | 1,473 | 1,907 | | |
| 60 点 ~ 69 点 | 1,071 | 3,555 | 2,293 | A | 1,628 |
| 70 点 ~ 79 点 | 968 | 2,284 | 1,399 | | |
| 80 点 ~ 89 点 | 615 | 1,605 | 384 | | |
| 90 点 ~ 100 点 | 181 | 130 | 45 | | |
| 計 | 5,116 | 10,050 | 7,331 | 4,090 | 1,628 |
| 対前試験比率 | | 196.4% | 72.9% | 55.8% | 39.8% |
| 午前 I 免除者概算 | 7,342 | 58.9% | | | |

| 合格者数 | 1,628 | 採点者数の割合 | 合格者数との差 |
|----------------|-------|---------|---------|
| 午前 I 60 点以上合計 | 2,835 | 55.4% | 1,207 |
| 午前 II 60 点以上合計 | 7,574 | 75.4% | 5,946 |
| 午後 I 60 点以上合計 | 4,121 | 56.2% | 2,493 |
| 午後 II・A 評価 | 1,628 | 39.8% | 0 |



新試験制度で春期の試験で午前 I 試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 7,342 人 (58.9%) おり、受験者の 6 割近くが午前 II からの受験となっています。

得点分布を分析してみると、高度系共通の午前 I 試験で基準点 (60 点) 以上の人は 2,835 人 (受験者の 55.4%) でした。また、午前 II 試験で基準点以上の人は 7,574 人 (受験者の 75.4%) と非常に高い率になっていますが、前回の午前 II も 78.7% の人が 60 点以上を取っているので以前として少し易しい問題だといえます。なお今後の午前 II 試験では、もう少し難しい問題が出題されることも考えられるため、難易度の少し高い問題も解答できるように学習する必要があるといえます。

午後 I で基準点 (60 点) 以上取れた人は 56.2% で、前回の平成 22 年春の試験の 51.1% に比べて 5% ほど上がっています。午後 II で合格点の A 評価を取れた人は 39.8% で、前回と大差はありませんでした。

■合否別の試験対策と学習教材のご案内

◆今回合格された人へ◆

合格された方で今秋の情報セキュリティスペシャリスト、ネットワークスペシャリストやシステムアーキテクト、IT ストラテジスト、IT サービスマネージャ試験を目指す方は、午前の試験が午前Ⅰの共通知識と午前Ⅱの専門知識に分かれます。

午前Ⅰ試験は免除になりますので、午前Ⅱの専門分野知識について、なるべく早く試験対策を開始してください。まずは該当分野の応用情報技術者試験の問題を解いてみましょう。

学習を開始するにあたり、出題範囲を網羅したコースでの学習をご希望の方は「午前Ⅰ免除者向け通信教育」、講師の直接指導を受けたい方は「合格ゼミ」など学習方法に応じてお選びいただけます。

また、弱点補強中心に学習を行いたい方や、すでに教材をお持ちの方はトレーニング問題とポイント解説、午後の音声講義によるポイント解説などの充実したコンテンツの「WEB 学習コース」など豊富な学習メニューを用意しております。

各教材の内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

(<http://www.itec.co.jp/>)

◆今回残念ながら不合格だった人へ◆

まず、午前Ⅰの試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習開始が必要です。時間のない方は、「応用情報・高度共通 午前試験対策」で出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。基本事項を理解していない人や苦手な分野がある人は、アイテック刊行の新試験用のレベル 3 のテキスト教材でじっくり学習することをお勧めします。

今回の午前Ⅰ、午前Ⅱ試験の得点が 50 点～59 点の人は、合格まで“あと一步”のところまで実力が来ていますので、学習した知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

また、午後試験の得点が 60 点に満たなかった人は、まず午前Ⅱの専門知識の内容に関して、午後試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。

次に確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。試験では選択範囲が広いので解答しやすくなるとも言えますので、チャンスが広がると考え、早めに対策を行いましょう。

なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えながら問題を解く訓練を行うのが有効です。

再受験のための学習にあたっては、弱点補強中心に学習を行いたい方や、すでに教材をお持ちの方はトレーニング問題とポイント解説、午後の音声講義によるポイント解説などの充実したコンテンツの「WEB 学習コース」、講師の直接指導を受けたい方は「合格ゼミ」がお勧めです。

その他、各種豊富な学習メニューを用意しております。

(<http://www.itec.co.jp/>)

(以上)